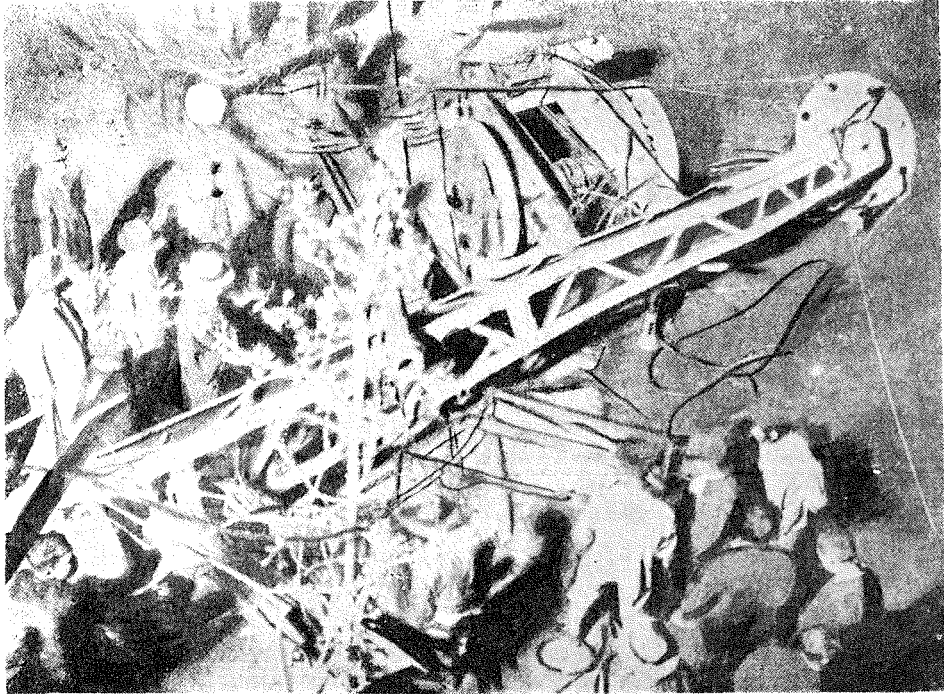


## 鐵骨工事中のデーリック倒壊



A terrible site was produced on October 26th, 1927 at Uyenō in Tokyo by a falling down of the heavy derrick crane which was at work for building a new Matsuzakaya Department Store. A few dead and several injured badly were result.

十月二十六日

午後7時45分下谷區上野廣小路いとら松坂屋呉服店本館建築場中央に眞立して居た大起重機高さ100尺のものが13噸の鐵柱を地上約3尺程つり上げた際起重機をつりさへてあるワイヤロープ三本が俄然切斷して起重機は大音響とともに帝都の最も交通頻繁な廣小路の表街路に打ち倒れ折からの人出時として遂に數名の死傷者を生じた事は工史上最も注目すべき椿事であつた。

松坂屋の上野新館工事は基礎工事を終り目下鐵骨組立中で晝夜兼行工事を急いでをる、何分市内屈指の高層建築であるから鐵骨工事にも三本の大形なデーリック、クレンを使用して鐵材の移動組立をやつてをる。今度倒れたのは其の中の一木である。此事件が起るや東京市内各新聞は種々の報道を夕刊朝刊に發表した。就中東京日日新聞の如き殆んど半頁にわたつてその發生原因始末結果等を記載した。

事件發生後直に本工事請負竹中工務店では福本支店長以下幹部現場にかけつけて前後の處置を執り起重機の倒れたマストは電氣切斷機で切斷して三名の死體を引出した。

松坂屋呉服店では直に重役參集死傷者を弔門し出來る丈けの見舞をした。翌日は工事現場で慰靈祭を行つた。

起重機取扱者は過失致死罪で起訴された、警視廳では其後市内の同種工事を巡視して次々注意を捉したが、何れ取締規定を制定する由。

警視廳野田建築課長は原因について左の如く發表した。ロツプは26噸4分9厘の重力に堪へ得るものであり乍ら3本まで切れた點に不審があるが、途中まで引上げた鐵材を一旦靜止して急に動かして動搖させた爲め一本のロツプに急激に力が集注して切れたのではないかと推察して居る。そうしてどの點に缺點があつたかと言ふ事は一口に言へないが起重機が鐵材を垂直に巻上ると斜めに巻上げるのとは腕木の關係上重量に可成變化をきたすものだ。その結果豫想外な大きい力がワイヤロープにかゝつたものらしく取扱上の不注意はまぬがれぬ云々、兎に角此の原因は重力の變りな急變のためか或は不調子のガタガタのためにロツプが切斷されたものと推定されてをる。

—(終)—